

## 秋まき小麦の「なまぐさ黒穂病」に注意！

秋まき小麦では、すでに開花が始まっており、生育は概ね順調に推移しています。

「なまぐさ黒穂病」は、これまでのところ名寄地区では未発生ですが、上川管内では旭川以南の地域で発生しており、毎年、新たな地区での発生が確認されています。

収穫開始後に確認されると、汚染子実や麦稈の持ち出しにより発生拡大の原因となるおそれがありますので、あらかじめ、ほ場の周縁や道路からの入り口、防除通路等を観察し、下記のような症状が発生していないかをご確認下さい。



正常な穂



なまぐさ黒穂病を発症した穂

### ○「なまぐさ黒穂病」が疑われる症状

- ① 1株の中で、草丈が低く、穂の外観が毛羽立ち、黒く変色している穂がある（左図）。
- ② 発病している穂では、子実が黒色の胞子で充満され、異臭（生臭いにおい）がする。

### ○発生が確認されたほ場の傾向

- ① 小麦を連作（連作年数が長いほど発生している事例が多い）。
- ② 排水性が不良。
- ③ 取り付け口周辺での発生が多い（内部で発生している事例もあり）。

万が一、疑わしい症状を確認された場合は、JAもしくは普及センターまでご連絡下さい。

JA本所農産課 01655-3-2521

JA営農センター営農課 01654-3-4307

農業改良普及センター 01654-2-4524